

令和6年度「学校自己評価(保護者評価)」アンケート結果

- ・回答数は194通で、全家庭数に対して74.6%の回答が得られた。
- ・評価は、4…当てはまる 3…少し当てはまる 2…少し当てはまらない 1…当てはまらない 0…わからないとした。
- ・数値は、その評価をした件数を有効回答数(全回答数から「わからない」を引いた数)で割った数を百分率で表したものである。

実施内容	学校評価の観点		設問	評価(%)			
				4	3	2	1
【敬愛】について 重点目標 自分を見つめ、願いを高めて集団づくりをしようとする基盤づくり	1	違いを受け止め、折り合いをつけられる心の教育の充実を図ることで、友のよさに触れ、多様性を認められる心の育成をする。	◆生徒が「学校が楽しい」と感じる学校になっていると思いますか。	48	35	10	7
	2	学年内や異学年との交流活動や生徒主体の活動中の互いの対話を通して、今の自分を見つめ直し、一歩踏み出す心を育成する。					
	3	上記2項目を通して、生徒が「学校が楽しい」と感じる学校にする。					
【窮理】について 重点目標 広がりや深まりを自覚できる授業の工夫	4	友に訊(き)く活動、気持ちを伝える活動、傾聴する活動を通して、生徒どうしが多様な考えに触れ、生徒が思わず語り合いたくなる授業をつくる。	◆生徒が「学習ができた、わかった」と感じる学校になっていると思いますか。	25	46	19	9
	5	学習用端末を授業で文房具として使うことなど、ICTを効果的に活用した学びの実践を行う。					
	6	上記2項目を通して、生徒が「学習ができた、わかった」と感じる学校にする。「わかる楽しさ」と「できる喜び」を感じる学習環境を整える。					
【実践】について 重点目標 よりよい学校生活を目指して語り合い、自分に返して行動する力の育成	7	職員主導から生徒主導の活動へ転換することで一人一人が活躍できる場を創出し、学級活動、学年活動、生徒会活動のさらなる充実を図る。	◆生徒が活躍し、生徒が輝ける学校になっていると思いますか。	44	42	11	3
	8	地域を知り、地域の方から学び、生き方に視点を当てた活動を通した系統立てたキャリア教育の実践を行う。	◆生徒が将来のために今できることを考え行動し、積み重ねて力をつける姿がありますか。	35	42	14	9

令和6年度「学校自己評価(生徒評価)」生活アンケート結果

あなた自身の行動について、数字を記入してください。

4… 当てはまる 3… 少し当てはまる 2… 少し当てはまらない 1…当てはまらない 単位(%)

■生徒自身の自己評価

	評価項目	評価(%)			
		4	3	2	1
1	自分は、気持ちの良い挨拶(あいさつ)・会釈(えしゃく)・返事ができている。	61	35	3	0
		+ 1			
2	自分は、気づきを大切にしたり清掃をし、無言清掃を行っている。	43	43	10	3
		△ 3			
3	自分は、クラスや学年の合唱で自分のもてる力を出して歌っている。	59	31	7	3
		△ 1			
4	自分は、ルールで決められている靴そろえをしている。	79	19	1	1
		0			
5	自分は、8時15分から読書を始め、時間いっぱい集中して読書ができている。	59	31	7	2
		△ 2			
6	自分は、生徒会活動に積極的にに関わり、委員会活動などよく取り組んでいる。	58	35	4	3
		+ 1			
7	自分は、友の良さや多様性(たようせい)を認め、仲間を大切にしている。	76	21	2	1
		0			
8	自分は、将来のことを考え、今できることを精一杯がんばっている。	54	34	10	2
		+ 1			
9	自分は、中学生としての誇りをもって、学校生活を送っている。	59	33	5	3
		+ 1			

■学校生活に対する総合的な満足度

	評価項目	評価(%)			
		4	3	2	1
12	あなたは、充実した(楽しい)学校生活を送っていますか。	59	31	7	3
		+ 1			

上段：その評価(12月)を行った件数を回答数で割った数を百分率で示す。

下段：同調査を本年度7月と比較したもの。肯定的意見(3または4)の7月に対する増減を示す。

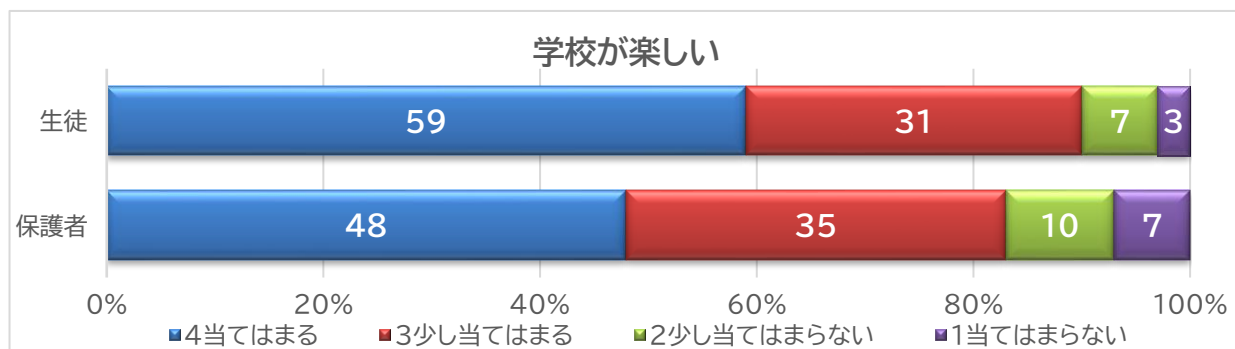
令和6年度「学校自己評価」分析と考察

【保護者向けアンケートより】

保護者の皆様におかれましては、学校評価アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございます。保護者向けアンケートとは別に、生徒向けアンケートおよび職員への調査も含めて学校評価のまとめをさせていただきます。アンケート結果から、第二中学校の成果と課題について三者の捉えに大きな相違はありませんでした。学校運営に対してお褒めのことばを頂いた一方で、課題として受け止めるべきご意見もいただきました。改めて課題を明確にして次年度に生かしていきます。ご意見を検討させていただき、すぐに改善できるところは今から実施し、課題を分析しながら次年度に生かしていきます。

I 「敬愛」部門 について

1 学校生活は楽しいと感じているか



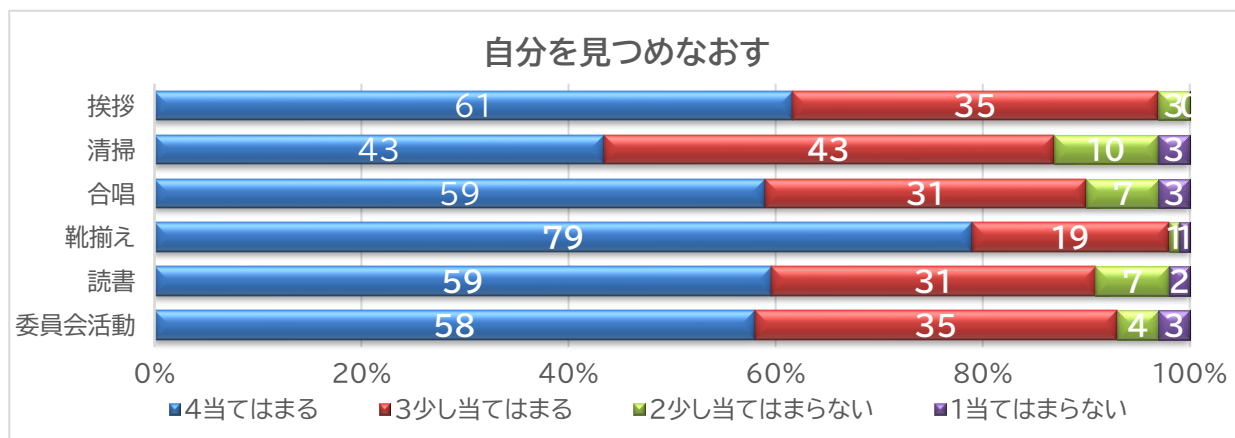
「学校生活が楽しいか、充実しているか」という設問に、生徒および保護者ともに選択肢3または4と回答(以下肯定的評価)している割合はほぼ同じでした。選択肢1と2と回答(以下否定的評価)している生徒は10名に1人(クラスに3～4人)の割合でした。学校としてその実態を把握し、さらなる支援をしていきます。具体的には年2回実施している教育相談カードでの聞き取りや、Q-Uアンケートを既に実施しており、担任はクラスの全員の生徒と個別に面談をしながら、学習面や心理面をサポートし、必要に応じて外部の機関につなげているが来年度も継続していきます。

2 観点1「多様性を認める心の育成」について

生徒の生活アンケート項目7(多様性を大切にしている)では、生徒の97%が肯定的な評価をしており、他の項目と比較してもかなり高いことから、生徒が多様性や仲間を大切にしようとしていることが裏付けられました。本校では水曜日の1校時に道徳の授業を設定しています。そこでは、教科書、時には学年で作成した教材を用い、登場人物の気持ちに寄り添い、その思いを語り、その思いを聞き合う活動をしています。また、人権学習月間を年2回設定しています。他人を大切に人権感覚を養い、具体的な場面を想定して「実行に移せる力」を身に付けています。

3 観点2「学年内と異学年の交流から自分を見つめなおす」について

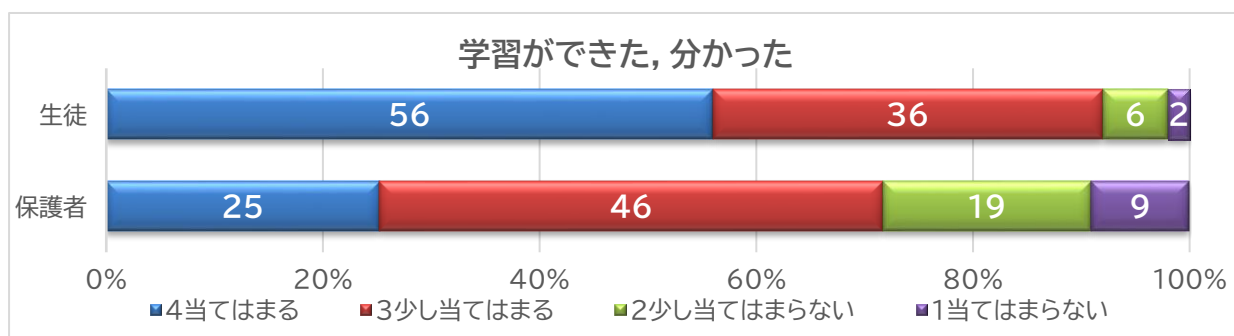
清掃や合唱の演奏などを縦割交流する活動を設けてきました。また、挨拶や靴揃え、読書活動などについて生徒会活動として力を注いできました。生徒向け自己評価は以下のようになりました。



どの項目も9割近くの生徒は肯定的評価をしています。その中でもあいさつや靴揃えは肯定的評価が高く、一方で清掃、合唱、読書は比較的低くなっています。本校では、1～3年までに共にまじりあって活動する「縦割り清掃」を一部の期間で実施しています。教員による指導だけでなく、上級生が下級生にあるべき姿を伝え、それを自然に学べる場を生徒会活動でも取り入れています。効果が大きいと考えており、来年度も回数を増やすことも研究しながら継続していきます。

Ⅱ 「窮理」部門 について

1 学習ができた、分かったと感じているか



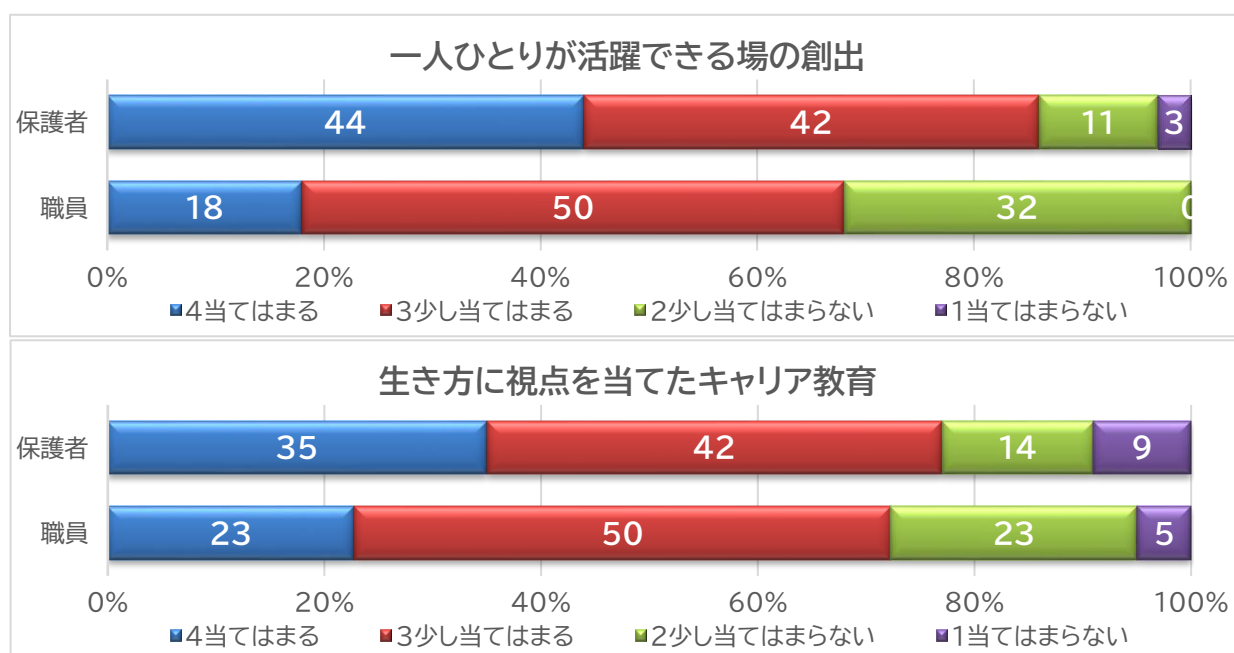
生徒向けアンケートでは、90%以上が肯定的評価をしています。一方で保護者の肯定的評価は70%にとどまりました。保護者の評価では、「テスト点や評価に結びつく授業になっているか」について指摘があり、指導と評価の一体化が問われています。来年度の研究の課題としていくべき事項と考えています。

2 ICT利用の授業に関わって

職員向けアンケートの68%が肯定的評価をしており、全項目の中では肯定的評価が低くなってい

ます。一方で昨年度の同内容の項目では55%が肯定的評価だったことを考えると、職員のICTへの対応力は昨年度に比べて少しずつ上がってきていると言えます。本年度本校では、数学で「スグ
ラパ」を利用したデータの分析、理科では「フィグジャム」を利用した意見交換のしかたについて
研究しました。来年度からは新しい授業支援ツールが導入されることから、研修会の機会を設け、
生徒が利用していけるような環境をつくっていきます。

Ⅲ 「実践」部門 について



一人ひとりが活躍できる場の創出では保護者の86%が「生徒が輝ける学校になっている」と肯定的評価をしています。学級や学年活動、生徒会活動で培われた自治の精神が二中生としての誇りとして生徒の内面に生き続けていくために、職員が二中の誇りとは何かをこれからも考え続けていきます。

地域の皆様、保護者の皆様に支えられながら学校運営に取り組むことができました。ありがとうございました。